

# ダニエル・カールの

# 聞きたい! 消防団

第17回

## 長野県上田市消防団

今回は東京から新幹線で約1時間半、真田氏発祥の地である「信州上田」をお訪ねしました。

団員数は2,000名を超え、女性消防隊ペナテスやバイク隊、音楽隊などさまざまな部隊を結成されているそうです。それらの活動内容や団員確保の取組、また防災対策などをお尋ねしたいと思います。

それでは、上田市消防団の矢島昭徳団長、宮原克彦副本部長（広報部会）、宮崎潤也副本部長、深井栄司副隊長（音楽隊）、関口雅人隊長（バイク隊）、山崎恵子隊長（女性消防隊ペナテス）、そして上田市消防部消防総務課の清水忠幸課長の皆さんからお話を伺いましょう。



前列左から、矢島団長、ダニエル・カール、山崎隊長  
後列左から清水課長、宮崎副本部長、深井副隊長、関口隊長  
（上田地域広域連合消防本部で撮影）

## 上田市と消防団の概要について

**ダニエル** まず、上田市の概要についてご紹介をお願いします。

**清水課長** 長野県は北信・東信・中信・南信という4つの地域に分かれていて、上田市は東信という地区にあたります。北は菅平高原、南は美ヶ原高原、市域の中央には一級河川の千曲川が流れる自然豊かなまちです。広さは総面積で552.04平方キロメートルですが、そのうち70%が森林です。

**ダニエル** 森林が多いんですね。今は、何と言っても大河ドラマ「真田丸」の舞台ですよな。

**清水課長** そうですね。上田市街地の原形をつくったのが真田氏なんです。徳川の大军を二度にわたって撃退したことは、私たちの誇りにもなっています。

**ダニエル** 人口はどのくらいですか。

**清水課長** 上田市は平成18年に旧上田市と丸子町、真田町、武石村という4つの市町村が合併して、新上田市になりました。そのときは16万1千人強あったのですが、今は16万人をちょっと割っているくらいです。

**ダニエル** 少し減っているんですね。

**清水課長** この先5年10年というスパンで見ると、明らかに減っていくのだろうなという予想はあります。

**ダニエル** こちらは消防団員さんが多いとお伺いしました。

**矢島団長** 平成18年3月6日に合併して、4月4日に4つの消防団が1つになるという結団式をやって、新上田市消防団が誕生しました。ですから、4月4日が上田市消防団の最初の日なんです。年度が変わる日が4月1日じゃなくて4日という、ちょっと珍しいんです。そのあと分

団の統合等がありまして、現在では29個分団で、団員定数2,270名です。

**ダニエル** へえ、すごいですね。人口16万人で、2,000名を超える消防団員がいらっしゃるんですか。

**矢島団長** 全国的に見てもやはり多いですよ。合併前の旧真田町には、人口1万人で500名もいましたし。

**ダニエル** どうしてそんなに多いんですか。

**矢島団長** 菅平の周辺が、非常に広いんです。

**ダニエル** 面積が広いから、人数も多いということですか。

**矢島団長** 人口密度にすれば少ないですよ。面積から比べると、その集落に消防団員がいるみたいな形ですから。小さな集落に何人か消防団員がいて、その辺の火事は自分たちだけで消せるっていう、昔からの風習ですね。

**ダニエル** 本部に電話して来てくれと言っても、来るまでに時間がかかると、自分たちで消したほうが早いんですね。

**矢島団長** 真田消防署が菅平に一番近いんですけど、それでも結局30分くらいかかります。だから菅平だけで消防団員が60名います。若者はほとんど全員入っているくらいで、入っていない人のほうが少ないです。

**ダニエル** 若い方がたくさん活躍されているんですね。頼もしいです。

**清水課長** 上田市消防団の平均年齢が今は34歳です。

**ダニエル** ずいぶんと若いんですね。

**矢島団長** もともと社会人になったら消防団に入ろうという風土があるところと、昔は定員以上の希望者がいたので定年を設けていたのですが、徐々に団員が少なくなってきたという

ことでその定年を外しました。昔は平均年齢が20歳代でしたが、最近は毎年平均年齢が上がっているんですよ。

**ダニエル** 例えば自分の父親が入っていれば、引退したら息子が入るといった習慣は強いのですか。

**矢島団長** 強かったところはありますね。でも、市街地では話は反対になってきて、昔父親がやっていたけれども、息子にそんな苦勞はさせたくない、というのを耳にすることもあります。

**ダニエル** なかなか難しいところですね。

### 各隊の紹介

**ダニエル** 皆さんそれぞれの趣味や特技に合わせたような、さまざまな部隊があるとお聞きしました。

**矢島団長** 今日はその特色のある、バイク隊、音楽隊、女性消防隊ペナテスの隊員を連れてきました。

**ダニエル** バイク隊ですか？どんな活動がされるのですか。

**関口隊長** 各分団に所属している分団員さんにバイク隊にも所属してもらっています。

**ダニエル** このあたりは山火事なども心配ですか。

**関口隊長** けっこうありますね。オフロードタイプのバイクなので、山火事の場合は山の中に入って行って、飛び火警戒の巡回などを行います。

**ダニエル** きちんと訓練をやらないといけませんよね。舗装路ばかりで乗っている人は、いきなりオフロードになるとバランスを取るのが難しく、転びやすかったりするので。

**関口隊長** そうですね。運転技術の講習会

も開いています。

**ダニエル** もともとバイクが好きだったんですか？

**関口隊長** はい。もともと好きだったんですけども、実は免許を持っておらず、ついこの間取りました。

**ダニエル** (隊員は)何人くらいいるのですか。

**関口隊長** 現在185名登録しています。



バイク隊

**ダニエル** 音楽隊もあるんですね。消防団員になって、プラスアルファで、何か自分の好きなことができるという感じですね。

**矢島団長** そうですね。音楽隊は特に、学生の頃に吹奏楽をやっていた団員が、社会に出てもやりたいということで、消防団に入ってからじゃなくて、音楽隊にまず入ってみたいという団員がけっこう多いですね。

**ダニエル** ブラスバンドなどをやっていた若い方々は社会人になるとなかなかチャンスがないですよ。何年くらいやっているのですか。

**深井副隊長** 私は高校卒業してからですので、23年ですね。

**ダニエル** え、23年…そんな年に見えませんかよ(笑)。

**深井副隊長** ありがとうございます(笑)。高校卒業後、二十歳の頃にこちらに戻ってきて、

そこから正式に始めたんです。当時、私は旧丸子町に住んでいて上田市には仕事で来ていましたので、そこで上田市消防音楽隊のことを知って、入団したという形です。

**ダニエル** ちゃんと自分の才能を活かす受け皿があってよかったですね。(担当の) 楽器は何ですか。

**深井副隊長** ユーフォニウムという楽器です。

**ダニエル** 音楽隊は何人くらいですか。

**深井副隊長** 今、男性隊員が19名、女性隊員が27名、音楽隊専門に所属しているのは、全部で46名です。去年はサントミュージゼという新しくできた交流文化芸術センターでコンサートを開催し、1,500名超の満員でした。



音楽隊定期演奏会の様子

**ダニエル** ラッパをやる人もいるんですか。

**深井副隊長** はい。隊員の中にいます。

**矢島団長** 長野県ってポンプ操法と同じように、ラッパの県大会があるんですよ。7月の最終日曜日には、県大会があります。

**ダニエル** へえ、県全体だとすごい人数になるんじゃないですか。

**矢島団長** そうですね、ラッパ手は上田市消防団だけで300名くらいですかね。各分団に5~10名ほどいて、それくらいじゃないと大会に出られないんです。

**ダニエル** 女性団員の皆さんはどんな活動

をしていますか。

**山崎隊長** 女性団員はそれぞれの分団ごとに活動をしています。活動内容も男性団員と同じように現場に行く団員もいれば、あとは後方支援や広報活動など、多種多様にわたっているなことをしています。また、女性消防隊のペナテスという隊は女性だけを招集して、女性だけの講習会を開いたりするなどの活動をしています。

**ダニエル** 「ペナテス」とはどのような意味ですか。

**山崎隊長** ローマ神話からきていて、「家庭の守護神」、「家庭の守り神」という意味です。

**ダニエル** なるほど。小学生などに火の用心のことなどを教えることもありますか。

**山崎隊長** そういう活動もしています。ちゃんとそれ用の紙芝居がありまして、保育園に出向いて、団員が読み聞かせをしています。



女性消防隊ペナテスによる紙芝居

**ダニエル** 広報活動などは、男性がやってもいいのですが、例えば子供が相手だと、どうしても女性のほうが受け入れられやすいというところがありますよね。男性だと怖がる子供がいるかもしれないし。そういうソフトパワーのところ、やはり女性の強みですよ。

**山崎隊長** そうですよ。

**ダニエル** (ペナテスの隊員は) 全部で何名くらいですか?

**山崎隊長** 今、80名おります。

**ダニエル** 市内の小学校や幼稚園を全部回るのですか。

**山崎隊長** 要請があれば行きます。上田市では子供祭りが5月5日に行われるので、そこにペナテス隊が出て、紙芝居を読み聞かせるということなどをやっています。

**ダニエル** 紙芝居が好きなんだよなあ。僕も昔、英語の先生として、英語を教えるための紙芝居を使っていたんですよ。そうすると印象に残るみたいで、みんな見てくれるんです。あれはいいアイデアですよ。他には、どんな隊があるんですか。

**矢島団長** 救護隊というのがあります。その隊では、多くの女性が応急手当普及員の資格を取得しています。消防職員と一緒に、市民や団員に向けて普通救命講習を教えることができる資格です。救護隊では、普通救命講習や上級救命講習、あとはAEDの講習会やストレッチ講習会などをやっていて、その中でも女性の力が徐々に発揮されてきています。やっぱり今、女性が進出している感じですね。

### 団員確保のための取組について

**矢島団長** 団員募集に関しては、広報部会というものを設けています。

**ダニエル** 活動内容を教えてください。

**宮原副本部長** バイク隊と同様に、広報部会も各分団に広報部員という団員がいて、その中からまた広報部の責任者に出てきてもらって、会議をしたり、ポスター展などの活動をしたりしています。毎年、隊のポスターと、各分団で団員募集をテーマにしたポスターを作っています。

**ダニエル** 先ほどちらっと(ポスターを)見たんですが、けっこう渋いんですよね。

**矢島団長** 昨年度ポスターコンテストがあって、投票で優勝したのが一番右の帽子の作品です(18分団作成)。また、2番目の作品(13分団作成)は、先日、NHKの「魅惑のソノタ」という番組でたまたま取り上げられました。

**宮原副本部長** それで賞をいただいたのが「地域の守り神」です。

**ダニエル** それぞれアーティストックで、広告代理店に頼んで作ってもらったみたいですね。

**矢島団長** なんか消防団っぽくないですよ(笑)。

**ダニエル** 失礼ですけど、本当に消防団っぽくないですね(笑)。



ポスター (左が13分団作成、右が18分団作成)

**宮原副本部長** これもすべて各分団の広報部員たちが考えて、ポスターにしています。

**ダニエル** どこかのコンサートの宣伝みたいですね。

**矢島団長** 合併したときからすべての分団で作ってもらっているので、在庫はかなりの数になりますね。

**ダニエル** すごくいい宣伝というか、団員募集にもなるし、作るのが楽しいでしょうね。

**矢島団長** 自分の分団に飾るだけでなく、

地元の大型ショッピングモールでも、消防団のスペースをもらって、定期的に飾ってもらっています。

**ダニエル** 失礼ですが、消防団ってどこか古臭いようなイメージがあると思うんですが、若い人がこういうものを見ると、「あ、こんなにセンスのいいポスター出しているんだ」と、イメージがやわらぎますよね。へえ、面白いですね。



**ダニエル** 地域の方たちの前でポンプ操法を披露されることもありますか。

**矢島団長** ポンプ操法は今度大会がありまして、大会以外で披露するというのは特にはないのですが、私が分団長のときは小学校の運動会でやりましたね。

**ダニエル** いいですね。小学生、喜ぶますよね。

**矢島団長** 避難訓練で(小学校に)いきなりサイレンを鳴らして行って、ポンプ操法をしました。

**ダニエル** 私の父も小学生のときよくきてくれたんですよ。消防車でサイレンを鳴らして校内に入ってきて、ポンプを見せたり、ジャーっと放水したり、子供たちはみんな大喜びでした。それが嬉しくて、自慢の父でしたね。

**矢島団長** 特に大きなことではなくても、地域と消防団を近くするという視点で考えると、できることはいろいろありますからね。

**ダニエル** 祭りに参加したり、小学校でデモンストレーションとかですか。

**矢島団長** 分団独自で夏祭りなどの地域のお祭りに参加しているところもいくつかありますね。

**関口隊長** そういうところにバイクを持って行って、アピールすることもあります。

**ダニエル** いいですね。

**深井副隊長** 音楽隊の出前演奏は、年間20回以上開催しています。小学生とコラボしたり、地域の夏祭りのアトラクションとして呼ばれたり、大型ショッピングモールでのミニコンサートなどもやっています。病院からお声がかかることもあって、入院患者やそのご家族に少しでも楽しんでもらえればということで、ちょうど明日も出前演奏に行きます。そこで予防防火活動の呼びかけや団員募集といった活動もしています。

**ダニエル** 皆さん、かなり忙しそうですね。訓練もしないといけないし、もちろんお仕事もしないといけないし。

**矢島団長** 今はラッパ吹奏とポンプ操法訓練を毎朝やっています。

**ダニエル** ラッパの訓練はどこでやるのですか。

**深井副隊長** (操法訓練と)同じグラウンドです。

**矢島団長** 地域の方から時々うるさいと言われながら(笑)。

**ダニエル** ラッパはやったことがないのですが、やってみたいなあ。練習する場所は限られているのですか。

**矢島団長** それは分団ごとに考えてということですね。うまいと何も言われませんが、下手だと苦情が来ます(笑)。

**ダニエル** 山伏のほら貝みたいなものですね(笑)。



## 防災対策について

**ダニエル** 災害で一番気をつけなければならないのは川の氾濫ですか。

**矢島団長** 千曲川などの大きな川を抱えていますし、最近は、集中豪雨が多いですからね。あと、やはり山が多いので崖崩れとか鉄砲水のような水害が気にかかります。広島で起きたような災害(平成26年発生)は、こちらも似ている地形がそこら中にありますので、心配ですね。各分団で、自分たちのところはどんな災害が起こるかというイメージをつくっておいて、どのような活動をしていくかという話は、してはいるのですけれどもね。

**ダニエル** 自分の管轄内の危ないところはだいたい把握されているのですか。

**矢島団長** 把握しています。上田市でハザードマップという地図が出ていますので、それは全戸に配ってあります。

**ダニエル** ここは内陸だから津波の心配はないとしても、山火事は心配ですよね。

**矢島団長** そうですね。昭和62年4月に3日間、その(窓から見える)山が燃えたんです。それに、熊本での地震もありましたので、今は地震があった場合の備えについて話し合いをしているところです。やはりあの地震はどこで起きてもおかしくないですから。

**ダニエル** 地震は、多いですよね。

**矢島団長** 東日本大震災が起こった次の日に、長野県の栄村で震度6強の地震が起きたので、心配するようになりました。

**ダニエル** 長野県はわりと災害が少ない県として評判はいいのですが、ただ油断してはいけませんよね。

**矢島団長** そうですね。

**清水課長** あと心配なのは火山の噴火ですね。この間の御嶽山(平成26年発生)のことがありますし、周りを見ると、浅間山もそうですが、けっこう火山がありますので。

## 今後の取組などについて

**ダニエル** 今後について、何かプランはありますか。

**矢島団長** 29の分団がそれぞれ定数を持っていて、その人数を確保するというのが一番のことですので、各分団には詰所があります。上田市の場合は、2階建てで、1階に消防車、2階は会議室といった造りになっており、今はそこに必ず女性の更衣室とトイレを設置して、女性も入団しやすいようにしています。その詰所を地域の安全拠点として、自治会長と会議をしたり、またそこからネットワークを広げて地域に溶け込んで、いろいろな情報を集めていこうと取り組んでいます。やはり上からワーッとやるだけではだめなので、二方向から、上からももちろん大切だし、下からというか、それぞれの分団の中でもじわじわとやっていくことで、地域に「消防団大変だな」「消防団いいことやってるな」ということを理解していただいて「ああ、消防団は必要だから、誰か団員になってもらわないといけないな」と。そんなイメージを持ってもらえるように活動しています。

**ダニエル** 大事ですよね。「いつも準備して

いるよ」、「いつも油断してないよ」ということですね。

**矢島団長** そうですね。それと「魅力ある消防団」ということを伝えていきたいので、「大変」よりも「楽しい」というイメージを大事にしています。その地区の若者が消防団に入ることによって、よくなっていくというか、退団後、自治会に戻ってきた時にちゃんとした人材になっていくよ、ということを経験の人たちに見てもらえるようにやっていきたいなと思っています。地域の小学校では、1学年100人規模のところもあれば、5人のところもあるというのがぼちぼちでてきているんですよ。現在100人団員を抱えている分団でも、10年後20年後を考えると100人が50人くらいになってしまうことも考えられますので、そこはしっかりやっていかないと。

**ダニエル** 山形も似たようなものです。人口が山奥の集落から少しずつ減って、市街に集まっていくんですね。これは長野や山形だけではなく、全世界の現象ですよ。でも、そういう社会現象に合わせて消防団員の皆さんががんばらないといけないところで、仕方がないといえば仕方がないんでしょうけど、どうやって対応するかというのをこれから少しずつ考えていかないといけないですね。



## 最後に

**ダニエル** 最後に上田市消防団のPRをお願いします。

**矢島団長** 「魅力ある消防団」を目指して、ポスターを作ったり、とにかく地域市民の方と消防団との距離を縮めようと、地域に消防団をアピールする活動をどんどんしています。もちろん消防団の防災活動、消火活動、訓練などのベーシックな活動がちゃんとあって、それ以外の活動で地域と消防団を結ぶということをいろんな形で考えているのが上田市消防団であるということです。ポンプ操法大会では必ず県大会で優勝するという意気込みで訓練に励み、去年の県大会でも優勝し、全国大会には、通算6回出場しています。(団の)中では、技術は日本一を常に意識し研さんに努めています。それが最終的に地域の方たちの安心安全につながっていくことですし、技術は絶対に裏切らないので、それを磨いていきます。

## 対談を終えて

長野県は美しい風景が数多くありますが、危ないところもあります。これまでも長野県内をあちこち回って見てきましたが、北信・東信・中信・南信、地域によってそれぞれ抱えている問題も、別々なんですね。上田市の各分団の皆さんが、自分たちで考え、積極的に地域とのつながりを深めようと楽しみながらがんばっているお話に大変感銘を受けました。

上田市消防団の皆さんのいっそうのご活躍をお祈りいたします。(ダニエル・カール)